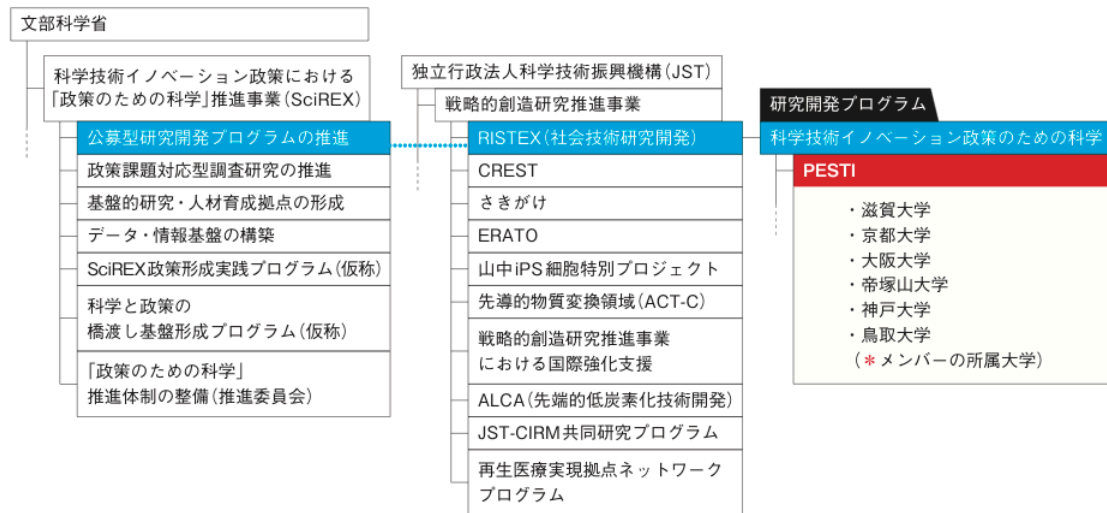


PESTI (=ペスティ) について

「STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計 (PESTI=ペスティ)」は、2012年、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) 社会技術研究開発センター (RISTEX) が2011年にスタートした「戦略的創造研究推進事業 (社会技術研究開発)：科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」に採択されて誕生しました。



同プログラムにこれまでに採択された11プロジェクトは共に、中長期に政策形成に寄与する手法・指標等の研究開発に取り組み、国や地方自治体の政策形成プロセス及び幅広い主体における政策提言等の政策形成に関わるなど、現実の政策形成における活用をめざす実践的な研究開発を行っています。

私たちは以下の3つの背景に基づいて、より民主的な科学技術イノベーション (STI) 政策プロセス形成に向け、多様な層の国民参画が必要だと考えるに至り、PESTIを提案するに至りました。

1. ポスト 3.11 において、国民の政策過程への参画促進がより一層求められています。
2. より民主的な科学技術イノベーション (STI) 政策プロセス形成に向けて、「関心層」(私たちの事前調査で日本国民の 52.2%がそれに当たることが分かっています) だけでなく残りの 47.8%も含めた多様な国民の参画を促すことが必要だと考えられます。
3. 政策の科学における研究活動と政策形成プロセスにおけるギャップを埋める必要があり、そのために実務家 (政策担当者、ファンディングエージェンシーの担当者等) との連携・協働が必要です。



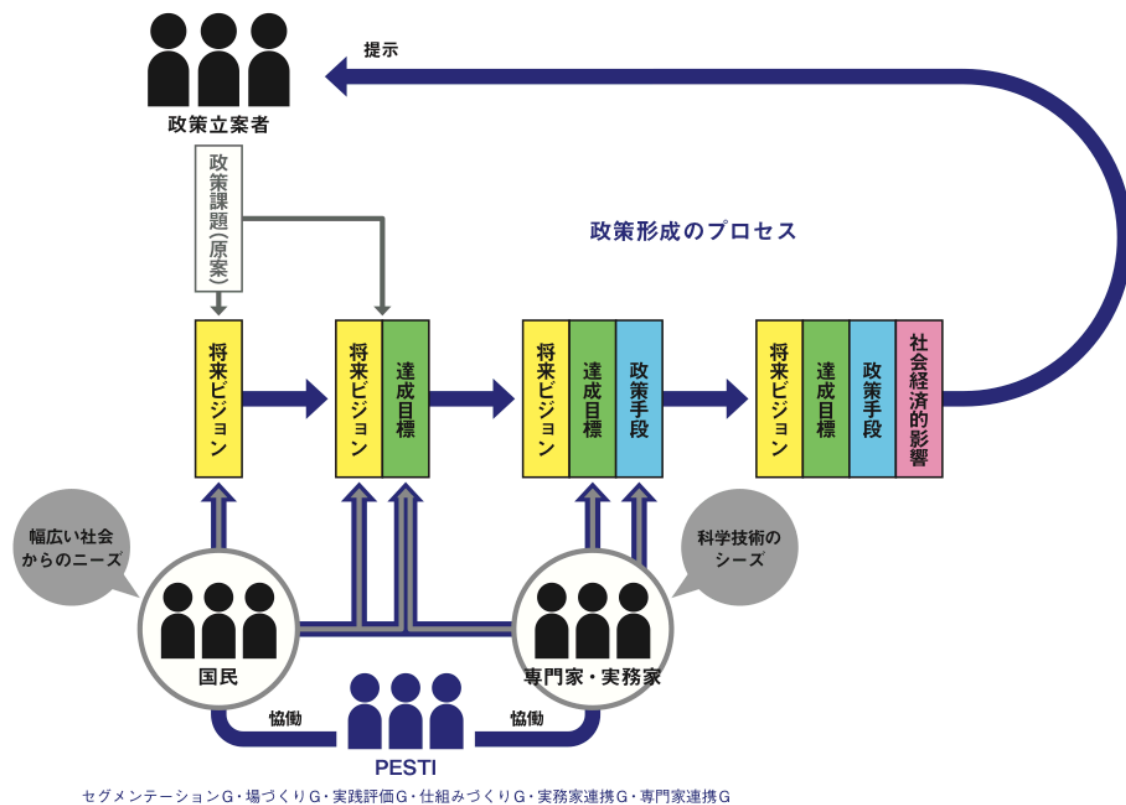
PESTI

STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計
Framework for Broad Public Engagement
in Science, Technology and Innovation Policy

私たちの PESTI は、以下の 3 つの目標を設定しています。

1. 「科学への関心」や「政策への関与」等の観点からセグメンテーションやプロファイリングを行うことで、これまで漠然と「国民」とされていた国民像をいくつかの鮮明なセグメントで捉え直します。その上で、科学技術イノベーション（STI）に向けた「セグメント固有のニーズ」を発掘していくことを目標の1つとします。
2. セグメント固有のニーズを発掘する際には、「STI 政策メニューの提示に資する」ことを最重視します。そのため、現実の政策形成につなげるための視点や工夫を加えることを目標の1つとします。
3. 成果を「実務家が利用できる」ようにすることを重視します。そのため、実務家との連携・協働を基本的な軸とすることを目標の1つとします。

STI 政策プロセスへの国民意見反映、及びその過程の公正性・透明性確保が期待されます。



2013年10月

PESTI (=ペスティ) 代表 加納圭

滋賀大学教育学部講師

京都大学物質-細胞統合システム拠点 (WPI-iCeMS) 特任講師



PESTI

STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計
Framework for Broad Public Engagement
in Science, Technology and Innovation Policy